

新型コロナウイルスワクチンの対応状況について

1 追加接種等の接種状況（2月14日現在）

対象区分	対象者数	接種人数（接種率）			
		3回目	4回目	5回目	うち令和4年 秋開始接種
12歳以上	666,095人	494,490人 (74.2%)	308,279人 (46.2%)	140,757人 (21.1%)	295,251人 (44.3%)
うち 65歳以上	165,660人	153,033人 (92.3%)	137,460人 (82.9%)	108,136人 (65.2%)	119,272人 (71.9%)

2 小児接種の接種状況（2月14日現在）

対象区分	対象者数	接種人数（接種率）		
		1回目	2回目	3回目
5歳～11歳	36,997人	7,563人 (20.4%)	7,004人 (18.9%)	3,334人 (9.0%)

3 乳幼児接種の接種状況（2月14日現在）

対象区分	対象者数	接種人数（接種率）		
		1回目	2回目	3回目
生後6か月～ 4歳	23,106人	1,182人 (5.1%)	927人 (4.0%)	129人 (0.5%)

4 集団接種会場の取扱い

TKPLuz 大森カンファレンスセンターは令和5年1月をもって接種を終了しました。

5 モデルナ社従来型ワクチン接種の取扱い

国からのワクチン供給の終了に伴い、令和5年1月12日をもって、区での接種を終了しました。

6 今後の接種に関する国の方針の検討状況

令和5年2月8日に開催された第52回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会 予防接種基本方針部会において、これまでの知見を踏まえ、国は以下のとおり令和5年度以降の接種方針を取りまとめました。今後、同分科会に諮り検討が進むことが見込まれます。

(1) 令和5年度の接種(要旨)

- ・ 重症者を減らすことを第一の目的とし、重症化リスクが高い者を対象とするが、それ以外の全ての者に対しても接種の機会を確保することが望ましい。なお、小児及び乳幼児については現時点で従来型ワクチンしか利用できないが、接種できる期間が短かったことから、当面、現在の接種を行うべきである。
- ・ 秋冬に次の接種を行うべきである。ただし、今後の感染拡大、変異株の状況やワクチンの持続期間に係る新たなデータ、諸外国の動向等を踏まえ、重症化リスクが高い者はもとより、健常人であっても重症化リスクの高い者に頻回に接触する者には、さらに追加して行う接種の必要性に留意する必要がある。
- ・ 令和5年の秋冬に使用するワクチンについて検討を進め、令和5年度早期に結論を得るべきである。

(2) 令和6年度以降の接種(要旨)

- ・ 今回の検討で得られた考察に加え、新たに得られる知見を注視し、令和5年中に結論を得られるよう検討を行う必要がある。
- ・ 薬事承認等を踏まえ、利用可能となったワクチンについて接種に使用するかどうかについては、引き続き、順次検討を行う必要がある。